

第4次岡山県がん対策推進計画の 分野別施策の進捗状況

令和8年1月20日（火）

1 がんの予防

①喫煙問題対策の推進
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・喫煙をやめたい人がやめることによって喫煙率を減少させ、20歳未満の者の喫煙をなくし、受動喫煙を防止する環境整備を行い、喫煙問題を改善することを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・世界禁煙デー等の機会を捉えた普及啓発・たばこからの健康影響普及講座・敷地内全面禁煙実施施設認定事業・若者等への禁煙環境整備事業・受動喫煙防止セミナーの開催・COPD 重症化予防事業・SNS 広告を活用した受動喫煙防止に関する啓発 等
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・20歳以上の者の喫煙率について、県民健康調査は計画策定時（令和6年度）から新たに調査を実施していないが、県民満足度調査同時調査では15.7%（令和7年度）となっており、悪化している。・20歳未満の者の喫煙率について、直近（令和5年度）の調査結果では中学生0.1%、高校生0.2%であり、目標値の0%は達成できなかった。・望まない受動喫煙の機会を有する者の減少について、県民満足度調査同時調査では31.8%（令和7年度）となっており、計画策定時の29.8%より悪化している。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・従来の取組に加え、若年層を中心に「加熱式たばこ」の健康に対する影響について普及を図り、喫煙率の減少、受動喫煙のない環境づくりを推進するための事業を推進するとともに、COPD（慢性閉塞性肺疾患）の重症化予防を目指すこととしている。

②感染症対策の推進
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎の正しい知識の普及啓発やウイルス検査の実施、肝炎医療体制の確保等により、肝炎の早期発見、早期治療を行い、肝がんの発症を予防することを目標とします。 ・子宮頸がん予防ワクチンの正確な情報を広め、ワクチンの積極的勧奨の差控えにより接種機会を逃した方を含めた対象者に対して、普及啓発し、接種の機会を逃さないことを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <p>＜肝炎＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域肝炎対策サポーター研修会の開催及びサポーター養成 ・肝炎一次専門医療機関及び保健所における無料肝炎ウイルス検査の実施 ・B型・C型ウイルス性肝炎の治療に要する医療費助成（肝炎治療特別促進事業） ・肝炎ウイルス検査陽性者への検査費用助成（肝炎陽性者重症化予防推進事業） ・ウイルスや細菌の感染が、がんのリスクを高める要因であることについての正しい知識を持つための情報をHPに掲載 <p>＜子宮頸がん＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校出前講座の開催 ・啓発資材の配布（リーフレット及びマンガをHPVワクチン定期接種対象者及びその保護者等に小・中学校、高等学校等を通じて配付） ・啓発動画の配信 ・岡山県子宮頸がん予防啓発アンバサダーの任命 <p>※アンバサダーは、啓発動画やバナー広告への出演や、知事表敬訪問等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等WEB広告の配信（配信媒体：Instagram、LINE、TikTok、Google等） ・生活情報誌に9価ワクチン、キャッチアップ接種に関する記事を掲載
<p>【進捗状況】</p> <p>＜肝炎＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター新規登録者数（令和6年度） 29名 ・県内 106箇所（肝炎一次専門医療機関）や県内 9箇所（保健所・支所）で肝炎無料ウイルス検査を実施し、肝炎感染者の早期発見に努めた。 <p>肝炎無料ウイルス検査実績（令和6年度） B型 532件 C型 532件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターフェロン治療、インターフェロンフリー治療及び核酸アナログ製

剤に係る医療費を助成することにより、早期治療の促進と肝硬変や肝がんへの進行の予防を図った。

- ・肝炎医療費助成申請件数（令和6年度） 1,771 件
- ・肝炎ウイルス検査費用助成件数（令和6年度） 54 件

<子宮頸がん>

- ・学校出前講座（令和6年度）：3校で実施、合計411名が受講
- ・啓発動画の配信（令和6年度）：合計約34万回再生
- ・SNS等WEB広告の配信（令和6年度）：

広告から県啓発サイトへの誘導数（クリック数）212,407回

【今後の取組】

- ・本県においては、肝がんの死亡率が全国に比べ高い傾向にある。さらに、ウイルス性肝炎は自覚症状がないことが多いため、気づかぬうちに肝硬変や肝がんへ進行する感染者が多いことが問題となっている。このことから、肝炎患者を早期に発見するため、肝炎ウイルス検査の受検勧奨に取り組むとともに、肝炎陽性者フォローアップ事業の周知により、定期検査費用の助成制度の利用拡大を図り、適切な治療に繋げていく。
- ・感染症によるリスクを自覚した対応を図れるよう、がん対策リーフレットの作成等を行う。
- ・現在、国内では年間約1万人が子宮頸がん罹患し、約3千人が死亡しており、特に20代～30代の若い世代の罹患率が高い。また、日本における子宮頸がんワクチン接種の状況は、世界的に見ると低い状況にある。このことから、岡山県では、従来の取組に加えて、令和7年度からは、AI技術を活用したバーチャルインフルエンサーによるSNS投稿を実施し、信頼性の高い情報をわかりやすく発信することで、正しい知識の普及に積極的に取り組んでいく。

③生活習慣の改善
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんと関連する飲酒、身体活動等の生活習慣を改善することを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉センターにおいて、大学や企業等に対しアルコール健康障害に関する出前講座を実施 ・市町村や健康づくりボランティア等と連携した運動習慣や適切な飲酒・食生活の定着に関する普及啓発 ・自然に健康になれる食環境づくりに取り組む「からだ晴れ食サポート事業」を実施
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合、日常生活における歩数、運動習慣者の割合、適正体重を維持している人割合、食塩摂取量が1日7g未満の者の割合、野菜と果物の摂取量については、計画策定時（令和6年度）の数値が最新となっている。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発においては、「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」や「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」等、国から示された最新の科学的知見も活用して、引き続き、運動習慣や適切な飲酒・食生活の定着を図る。 ・また、「おかやま健康づくりアワード」の開催等により、健康づくりに取り組む気運の醸成を図り、県民の生活習慣の改善を促す。

2 がんの早期発見

①がん検診の受診率の向上
【個別目標】 <ul style="list-style-type: none">・全てのがん検診の受診率（市町村、医療保険者及び全額自己負担実施分含む）を、いずれも 60%以上とすることを目標とします。
【県の主な取組】 <ul style="list-style-type: none">・愛育委員の個別訪問による受診勧奨・がん検診推進事業（国庫補助金）の実施等による受診率向上の取組・乳がん・子宮頸がん検診の必要性等について、県民の理解を広めるために出前講座を各保健所で実施・ラジオ、広報誌及びチラシ等での受診勧奨・ホームページ「岡山がんサポート情報」に、がん検診に関連する情報を掲載
【進捗状況】 <ul style="list-style-type: none">・男女ともに肺がん検診及び男性の胃がん検診、大腸がん検診、女性の乳がん検診は 50%を超えているが、他は 40%台であった。
【今後の取組】 <ul style="list-style-type: none">・本県のがん検診受診率は、いずれも全国を上回っている。しかし、いずれも受診率は 47%～57%であり、目標値の 60%は達成していない。・がん対策に関する世論調査によると、がん検診を受けない理由として、「受ける時間がないから」、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が上位を占めており、がん検診の重要性の理解を促進する必要がある。引き続き愛育委員や市町村と協働してチラシ等での受診勧奨やラジオ、広報誌等で普及啓発を行うとともに、今後は受診に行かない人の心理的バイアスに着目し、新しいアプローチで行動変容を促すナッジ理論を利用するなど、新たな手法を活用した受診勧奨にも取り組み、受診率の向上を図る。

②がん検診の質の向上
【個別目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村が行うがん検診の精検受診率を 90%以上とすることを目標とします。
【県の主な取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県がん精密検診結果管理収集事業による精検結果の収集・分析 ・岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会による精度管理
【進捗状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・乳がんのみ 90%を超えているが、他は約 70～80%台であった。
【今後の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・検診の実施方法や精度管理の在り方について、専門的な見地から適切な指導を行うため、岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会各がん部会を設置し、毎年度、市町村が行うがん検診の精度管理の収集、評価とその公表及び評価に基づいた指導を行っている。 ・精度管理指標については、県全体では国が示す基準値（子宮頸がんは許容値）をおおむね満たしており、精度の高い適正な検診が行われていると判断できるものの、個別目標である精検受診率 90%以上を達成できていないがん検診や市町村もあるため、今後も協議会各がん部会を通じて専門的な助言・指導を行う。また、がん検診の結果、精密検査が必要と診断された場合には、確実に精密検査を受診するよう、検診機関の協力も得ながら受診勧奨を徹底し、目標達成に向けて取り組む。 ・精密検診結果の収集、分析、市町村への情報の還元により、検診精度の向上を図るとともに、各がん精密検診機関の登録等を適正に行うなど、効果的な検診が行われるよう、体制の整備を図る。

3 がんの診断・治療に関する医療水準の向上

①がん診療連携拠点病院等の充実・強化
【個別目標】 <ul style="list-style-type: none">・がんの診断、治療、緩和ケア、希少がん、難治性がん及びがんゲノム等について切れ目のない医療が提供できるよう、拠点病院等や地域の医療機関、かかりつけ医の役割分担を踏まえた連携体制の整備を目標とします。
【県の主な取組】 <ul style="list-style-type: none">・国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く6つの拠点病院と2つの地域がん診療病院への運営費の補助・がん診療連携協議会及び各部会への参加
【進捗状況】 <ul style="list-style-type: none">・拠点病院等はがんの診断や治療、緩和ケア等に関する研修会の開催等により、医療水準の向上、地域医療機関との医療連携体制の整備を図った。・岡山県がん診療連携協議会及び各部会において、地域連携、相談支援、緩和ケア等に関する課題や取組状況について協議、情報共有を行った。
【今後の取組】 <ul style="list-style-type: none">・引き続き、拠点病院等において、研修会の開催等により、医療水準の向上、地域医療機関との医療連携体制の整備を図る。・連携協議会及び各部会において、引き続きがん診療の課題や取り組みについて情報共有を図る。

②手術療法・放射線療法・薬物療法及びチーム医療の推進
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等は、県民が安全かつ安心で質の高いがん医療が受けられるよう、手術療法、放射線療法、薬物療法等を効果的に組み合わせた集学的治療を実施する医療提供体制の強化を図ることを目標とします。 ・拠点病院等は、がん患者とその家族のＱＯＬの維持向上が図られるよう、入院や在宅での療養生活など、患者の状況に応じたサポートを提供できるよう、多職種によるチーム医療体制の整備を目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く６つの拠点病院と２つの地域がん診療病院への運営費の補助
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等は、集学的治療を提供する体制を整備した。 ・拠点病院等は、緩和ケアチームや口腔ケアチーム等の多職種からなる専門チームを組織した。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等において、手術療法、放射線療法、薬物療法を組み合わせた集学的治療を積極的に実施するとともに、手術療法、放射線療法、薬物療法による多職種でのチーム医療を提供する体制の強化を図る。

③がん診療ガイドラインに沿った医療の推進
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん治療を実施している医療機関は、がん患者が質の高い治療を受けられるよう、最新のガイドラインに準じた治療を行うことを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く6つの拠点病院と2つの地域がん診療病院への運営費の補助 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」に、日本癌治療学会のがん診療ガイドラインを掲載
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等は、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療を提供した。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等は、引き続き、最新の診療ガイドラインに沿った治療が提供できるよう、がん医療従事者に対して研修会や合同カンファレンスを実施し、医療従事者の資質向上を図る必要がある。 ・各学会等の患者向けの診療ガイドラインや解説等の情報を、ホームページ等を活用し患者に提供する。

④がんと診断された時からの緩和ケアの推進
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに住んでいても適切に緩和ケアが受けられるよう、緩和ケア研修を修了した医師等を増やすことを目標とします。 ・緩和ケアの普及・啓発により、県民の緩和ケアに対する正しい理解の促進を図ることを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県医師会に委託して緩和ケア研修会及び緩和ケアフォローアップ研修会を開催 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」にて、緩和ケアに関連した情報について紹介
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度 200 人以上の医師等が緩和ケア研修会を修了しており、目標値達成に向けて着実に増加している。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の緩和ケア研修会修了者は研修医を主として着実に増加している一方、依然として医師以外の職種（看護師、歯科医等）及び拠点病院以外の地域の病院からの参加者は少ない。まずは緩和ケア研修会の認知を図るため、今後、県ホームページ等で普及活動を行い、幅広い職種及び地域の病院からの研修参加者を呼び込むように取り組む。

⑤地域における医療連携の推進
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携パスの在り方を検討し、拠点病院等とかかりつけ医との連携が円滑に行える体制の整備を推進することを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「岡山がんサポート情報」に地域連携パスの説明を掲載 ・医療機関から在宅へと円滑につなぐための体制整備を目的とし、2年に1回、おかやま医療介護多職種連携支援ブックの作成を岡山県介護支援専門員協会に委託 ・医療側と介護側の相互理解や多職種連携を図るための研修の実施
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各拠点病院等における利用件数をがん診療連携協議会で共有するとともに、内容の更新を随時行っている。 ・おかやま医療介護多職種連携支援ブック Ver5 を作成し、県内医療機関等に配布。また、医療側と介護側の相互理解を図るための研修会を1回実施した。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院によってクリティカルパスの利用件数に差があり、ほとんど利用していない病院もあることから、各がん診療連携拠点病院で構成されるがん診療連携協議会において、パスの在り方も含めた地域連携について検討を行う。 ・おかやま医療介護多職種連携支援ブックについては、掲載情報を更新し、見やすくする。 ・今後も、医療と介護の相互理解を図るため、研修を継続して実施する。

⑥在宅医療（療養）提供体制の構築
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるよう、急性増悪時における円滑な受入など在宅療養を支える医療機関の増加を目標とします。 ・自宅のほか老人ホーム等望んだ場所で最期を迎えることのできるがん患者の割合の増加を目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療介護多職種連携人材育成事業や医療介護連携体制整備事業等において、研修会を実施、多職種連携による在宅医療提供体制を推進
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんによる在宅死亡の割合は、令和6年時点で18.3%となっており、近年は減少傾向が続いている。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護に関わる職能団体の代表者等で構成する「岡山県在宅医療推進協議会」において、各職種の役割や多職種連携のあり方、各団体の取組等について協議し、協働に向けた合意形成と医療・介護関係団体間の連携を図る。 ・医療機関、県医師会等、介護関係団体、市町村等関係機関と連携を図りながら、県民が自分らしい療養生活を人生の最終段階まで含めて考え、家族等と話し合い、家族・関係者に希望を伝え、これをかなえる環境を整備する。そのために、医療・介護関係者と連携し、県民が自分らしい生活や人生の最終段階における生き方、生命の尊厳について考えるよう普及啓発を進める。

⑦がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より質の高い医療が提供できるよう、がん医療に携わる医療従事者のさらなる資質向上を図るとともに、専門看護師、認定看護師及び特定認定看護師の養成を目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <p>(看護職員資質向上支援事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定行為を行う看護師、専門看護師・認定看護師及び特定認定看護師の医療機関における養成に必要な経費の一部を補助
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん看護専門看護師数 22 名（令和 7 年 2 月） ・がん関係の認定看護師数（緩和ケア、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、乳がん看護、がん放射線療法看護）56 名（令和 7 年 2 月） ・がん関係の特定認定看護師数（緩和ケア、がん薬物療法看護、乳がん看護、がん放射線療法看護）4 名（令和 7 年 2 月）
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関が負担する認定、専門看護師教育機関、特定行為研修機関への受講料及び派遣職員の代替として雇用された看護職員の人件費を助成することにより、専門看護師・認定看護師及び特定認定看護師の養成を支援する。

4 患者・家族への支援

①相談窓口の充実
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・がん相談支援センターの周知を図り、がん患者が安心して相談できるようにすることを目標とします。・どこのがん相談支援センターで相談しても、等しく質の高い、専門的な相談支援が受けられることを目標とします。・がん患者とその家族及び身近な人を亡くされた方々への相談支援体制の充実を目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」、ラジオ広報によりがん相談支援センターを紹介・ピアサポータースキルアップ研修を開催するとともに、研修受講者の活動の場として、院内・院外のピアサポート活動を実施・がん患者会への専門家派遣事業により、がん患者会が実施する研修会等へ専門家を派遣し、患者会活動を支援・遠方に住むがん患者等に対してオンラインで相談対応ができるよう、体制整備を支援
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・がん相談支援センターへの相談件数は、令和6年度は14,222件であり、前年度より減少した。・研修事業を通してピアサポーターの資質向上や、相談支援体制の充実を図った。・がん患者会への専門家派遣事業を通して、患者・家族の療養生活における相談や助言を行い、相談支援体制の充実を図った。・グリーフケアのあり方については、引き続き検討が必要。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・がん相談支援センターにおいて、がんの病気や治療、今後の療養や生活への不安等の悩みを受診の有無にかかわらず、誰でも無料で相談できることなどを引き続き広く県民に周知する。・遠方に住むがん患者など、がん相談支援センターへの来所が困難な患者からの相談にも対応できるよう、オンライン等を活用した相談体制の整備を図る。・がん患者団体が実施する研修会、講習会等にごがん治療等の専門家を派遣し、専門的な助言を受けられるよう支援する。

②情報提供
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する情報を必要とする人が、必要な情報にアクセスできることを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「岡山がんサポート情報」を開設、岡山県のがん医療や療養等に関する情報を発信 ・冊子「岡山県がんサポートガイド」を作成し、拠点病院等で患者に配布 ・ラジオを活用し、がん相談支援センターを紹介
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「岡山がんサポート情報」のひと月の閲覧件数は、令和6年度は488件であり、計画策定時に比べて70件程度増加している。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者等が必要な情報にアクセスできるよう、ホームページの周知及び更新に努めるとともに、がん患者団体の活動や拠点病院の研修について、ホームページ等を活用し周知する。 ・がん相談支援センターにおいて、がんの病気や治療、今後の療養や生活への不安等の悩みを受診の有無にかかわらず、誰でも無料で相談できることなどを引き続き広く県民に周知する。

③がん患者の QOL 向上
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等において、アピアランスケアやがんに伴うこころの相談に係る相談対応や情報提供が適切になされる体制の構築を目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アピアランスケア助成により、ウィッグや補整具等の購入費の一部を助成 ・アピアランスケアに関する適切な相談対応ができるよう、医療従事者向け研修会を開催 ・アピアランスケアについて説明用資材を作成し、がん相談支援センターへ配布 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、アピアランスケアに関する情報を掲載
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は21市町村で事業が実施され、ウィッグ等549件、補整具等93件の申請があった。 ・医療従事者に向けて、アピアランスケアの意義、基本的な支援方法等について研修会を開催した。 ・こころの相談に係る相談対応については、引き続き検討が必要。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の市町村でアピアランスケアの助成制度が活用されるように取り組む。 ・アピアランスケアに係る効果的な相談対応と情報提供ができるよう、拠点病院等の職員に対して研修会を開催する。 ・がん患者が、自分で納得できる意思決定を行えるよう、アピアランスケアの普及・啓発を図る。 ・がん患者向けのアピアランスケアについての説明用資材を作成し、がん相談支援センター13か所で配布するとともに県ホームページにアピアランスケアに関する情報を掲載するなど、普及啓発を図っていく

④患者等の参画の推進
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者団体間や関係機関との交流や情報交換が図られるよう、患者団体のネットワーク強化を進めるとともに、患者団体の活動の充実を図ることを目標とします。 ・患者及びその家族等が参画できる体制整備を図ります。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大がん患者会ネットワーク会議を開催し、がん患者会だけでなく病院や関係団体も含めた情報交換・意見交換を実施 ・がん患者会への専門家派遣事業により、がん患者会が実施する研修会等へ専門家を派遣し、患者会活動を支援 ・岡山県がん対策推進協議会に、患者会の代表者を委員として委嘱
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大がん患者会ネットワーク会議により患者団体間での交流や情報交換が行われた。 ・講師派遣を行うことで、患者会の要望に沿った支援を行った。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大がん患者会ネットワークを開催し、患者団体間での交流や情報交換を図る。 ・患者会への講師派遣を行い、患者団体の取組を支援する。

5 がん登録の推進

①院内がん登録の精度向上
【個別目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等は院内がん登録により、がん診療の実態を把握し、がん医療の質の向上に努めます。
【県の主な取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・院内がん登録の予後情報収集等において拠点病院等と連携
【進捗状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等において、院内がん登録の精度向上を図った。
【今後の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・院内がん登録を活用し、治療の結果等を評価すること及び他の病院における評価と比較すること等により、がん医療の質の向上を図る。また、患者・家族等に対する適切な情報提供を行うため、より一層の精度管理に努める。

②がん登録データの活用
【個別目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・がん登録で得られたデータを利活用することにより、効果的な施策を実施することを目標とします。
【県の主な取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・全国がん登録情報の罹患率、死亡率等をがん対策推進協議会等に提供し、施策検討に活用
【進捗状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・2016年に全国がん登録制度に移行し、DCO1.6%、DCI2.5%(2021年)と登録データの精度が向上した。 ・院内がん登録の予後情報収集等において拠点病院等と連携を行うなど、精度向上に努めた。
【今後の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・本県の地域がん登録は全国的に見ても精度が高く、DCO割合、DCI割合ともに一定の数値を維持できている。今後も精度の高い割合を確保し、がん登録データを活用した、がん検診の重要性の普及や、がん医療の質の向上等に努め、患者・家族等に対する適切な情報提供を行う。

③研究支援
【個別目標】 ・がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動への支援が有効に行われることを目標とします。
【県の主な取組】 ・がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体による岡山県がん情報の提供申出に対し、審議会で審議を行った上での情報提供
【進捗状況】 ・がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動を支援した。
【今後の取組】 ・引き続き、がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動の支援を行う。

6 小児、AYA世代、高齢者のがん対策

①小児がん、AYA世代のがんの医療提供体制の整備
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・小児がん拠点病院、小児がん連携病院、拠点病院等とかかりつけ医などの関係機関が連携し、小児・AYA世代のがん患者とその家族が安心して適切な医療や支援が受けられる医療提供体制を構築することを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・小児がん拠点病院である広島大学病院が開催する「小児がん中国・四国ネットワーク会議」への参加・情報交換・子供を授かることを望む患者への、妊孕性温存療法及び温存後生殖補助医療に要した費用の助成・がんに関わる医療従事者向けの妊孕性温存に関する研修会の開催
<p>【進捗状況】</p> <p>・「小児がん中国・四国ネットワーク会議」が設置され、医療機関同士の連携が図られた。また、妊孕性温存を望む小児・AYA世代のがん患者が、適切に妊孕性温存実施医療機関に繋がるよう、相談・紹介のフローが作成されており、適切な医療や支援が受けられる医療提供体制の構築が図られた。</p>
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・小児がん拠点病院、小児がん連携病院、拠点病院等とかかりつけ医などの関係機関が連携し、小児・AYA世代のがん患者とその家族が安心して適切な医療や支援が受けられる体制の整備を目指す。・小児がん、AYA世代のがんを速やかに専門施設で診療するための情報提供や相談支援等の取組を進める。

②小児がん、AYA世代のがんに関する相談支援、連携体制の構築
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児・AYA世代のがん患者とその家族等が悩みなどについて気軽に相談できるよう、相談支援体制の整備に取り組むとともに、ライフステージに応じた必要な情報を正しく入手できるよう、「岡山がんサポート情報」等の情報源の周知を図ることを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大がん患者会ネットワーク会議や、がん患者会への専門家派遣事業により、患者会活動を支援 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」、ラジオ広報によりがん相談支援センターを紹介 ・冊子「岡山県がんサポートガイド」に子どもの療養、AYA世代のがんの説明を掲載 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、妊孕性温存療法の情報を掲載 ・がんに関わる医療従事者向けの妊孕性温存に関する研修会を開催 ・小児がんについて普及を図るため、岡山城や岡山県庁正面玄関ピロティのライトアップを実施
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩みなどについて相談できるようがん患者会への専門家派遣事業を通して患者会活動を支援した。 ・がん相談支援センターに関する広報を行い相談体制の周知を図った。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、がん相談支援センターに関する広報を行う。 ・AYA世代のがん患者は、個々のライフステージにより、異なる問題を抱えているため、ライフステージに応じた必要な情報を正しく入手できるよう、引き続き、ホームページ等を活用し研修等の情報提供を行う。

③妊孕性温存療法
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児・AYA世代のがん患者が妊孕性温存療法の実施について、患者本人の意思決定が適切に行えるよう、必要な情報の提供を行うとともに、相談支援体制の整備を図ります。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、妊孕性温存療法の情報を掲載 ・子供を授かることを望む患者に対し、妊孕性温存療法及び温存後生殖補助医療に要した費用の一部を助成 ・がんに関わる医療従事者向けの妊孕性温存に関する研修会を開催
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者を対象とした研修や、ホームページ「岡山がんサポート情報」により、情報の提供が図られた。 ・医療従事者を対象とした研修により、相談支援体制の整備が図られた。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊孕性温存療法の実施について、患者本人が適切に選択できるよう、引き続き情報提供に努める。 ・妊孕性温存療法を実施した患者だけでなく、実施できなかった患者や妊娠・出産に至らなかった患者への相談支援体制の構築について検討する。

④高齢者のがん対策
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢のがん患者が、他の疾患の状態等の個別の状況に応じた、適切な医療や支援が受けられる体制を整備することを目指します。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」、ラジオ広報によりがん相談支援センターを紹介 ・ 県民が住み慣れた地域で、望ましい療養生活ができる社会の実現に向けて設置した岡山県在宅医療推進協議会において、在宅医療の確保及び連携体制の構築に関する事項等について協議を実施
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点病院等において、高齢者のがんに関して、併存症の治療との両立が図れるよう、関係する診療科と連携する体制が整備されている。 ・ 高齢のがん患者が、他の疾患の状態等の個別の状況に応じた、適切な医療や支援が受けられる体制の整備について引き続き検討が必要。 ・ 協議会を開催し、在宅医療に関する課題の共有や多職種連携のあり方等について協議を行った。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の高齢のがん患者の状態に応じた、適切な医療や支援の提供がなされるよう、拠点病院等とかかりつけ医等の連携体制の構築について検討する。 ・ 医療・介護関係団体間の連携を進めるため、今後も岡山県在宅医療推進協議会を開催し、各職種の役割や多職種連携のあり方等について協議を行う。

7 がんの教育・普及啓発

①学校におけるがんの教育の充実
【個別目標】 ・がんの予防、早期発見が進むよう、児童、生徒等へのがんの教育の在り方について検討することを目標とします。
【県の主な取組】 ・教員を対象に「がん教育普及推進研修会」を開催（R6.12） ・県作成のがん教育に特化した外部講師リスト（医療関係者やがん患者会など）を学校に周知
【進捗状況】 ・外部講師を効果的に活用したがん教育の推進についての研修会を開催している。 ・医療関係者やがん患者などの外部講師リストを学校に周知し、各学校の実態に応じて、計画的に外部講師を活用したがん教育を実施するよう伝えている。
【今後の取組】 ・小学校、中学校、高等学校それぞれの発達段階に応じて、保健教育のほか、学校教育活動全体を通じて「がんについての正しい知識」と「健康や命の大切さ」について理解を深め、自ら実践できるようにする。 また、教職員対象の研修において、がん教育の意義や外部講師の積極的な活用について触れ、がん教育の推進を図る。

②がんを正しく理解するための普及啓発
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの予防、早期発見・早期治療を進め、がんへの誤解がなくなるよう、より多くのがん患者とその家族、県民へ正しいがんの知識が広まることを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、がんの病気や治療等に関する情報を掲載 ・乳がん・子宮頸がん検診の必要性等について、県民の理解を広めるために出前講座を各保健所で実施 ・がん征圧岡山県大会を開催（R6.9） ・がんの予防、早期発見・早期治療の啓発のため、岡山城や検討正面玄関ビロティのライトアップを実施 ・子宮頸がん予防に関する正しい知識の普及を目的とした、啓発資材（リーフレット等）の作成・配布や SNS 等 WEB 広告の配信等を実施
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座や講演会等により、がんに関する普及啓発を実施した。 ・がん征圧岡山県大会を開催し、がん予防に関する正しい知識の普及啓発や早期発見・早期治療のための検診勧奨、関係機関・団体等の組織強化を図った。 ・啓発資材（リーフレット等）の作成・配布や SNS 等 WEB 広告の配信等により、子宮頸がん予防に関する正しい知識の普及啓発に取り組んだ。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん・子宮がん検診受診促進事業や、民間事業者と連携した普及啓発事業のほか、講演会の開催、資料の配付、広報などを通じて、がんの予防、早期発見・早期治療等の普及啓発に取り組む。 ・がん患者とその家族、県民ががんを正しく理解する環境は整備されてきているが、一方でがん検診受診率の低さや緩和ケアについての理解が不十分であるなどの課題もあるため、出前講座等により、引き続き正しいがんの知識の普及啓発に取り組む。

8 がんになっても安心して生活し、がんとともに自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現

①治療と仕事の両立支援のための取組
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・がん患者が治療を受けながら働くことができる職場環境づくりを目標とします。・がん患者が診断時から治療と仕事を両立するために必要な情報の提供や相談支援が受けられる体制の整備を目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・岡山労働局が設置した「岡山県地域両立支援推進チーム」へ参画し、関係団体と連携し、両立支援の取組みを実施・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、治療と仕事の両立支援に関する情報を掲載・経済団体を対象とした治療と仕事の両立支援に関する研修会の開催・メールマガジンや県広報紙「労働おかやま」を通じた治療と両立支援についての情報提供
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・多くの拠点病院で、ハローワークや産業保健総合支援センターと連携した就労相談が定期的に行われた。・令和5年度に実施したアンケート調査において、がんと診断された後の就労の変化について、自営業の方は、休業や事業の縮小、廃業等の影響、自営業以外の方は、依願退職、休職、解雇等の影響があったとの回答が多くあった。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・経済団体に対して医師・社労士などによる研修会を開催し、がんに対する正しい知識を普及啓発する。・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」を活用しがん相談支援センターを周知する。

②ライフステージに応じたがん対策
<p>【個別目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児・AYA世代のがん患者・経験者とその家族に対して、利用可能な制度や相談機関等の周知を図ることを目標とします。 ・がん患者が、人生の最終段階において、本人の望む場所で最期を迎えられるよう、ACPの普及啓発を推進することを目標とします。
<p>【県の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体の支援事業について拠点病院へ周知するとともに、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、患者会や相談支援センター、利用できる制度等を掲載 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について掲載 ・ラジオ放送等の各種媒体を活用した普及啓発の実施 ・ACP普及啓発のための、県民・医療従事者向けセミナーの実施 ・包括連携協定を締結している、生命保険会社との健康ブース出展の実施
<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や冊子「岡山県がんサポートガイド」を通して利用可能な制度や相談機関等の周知を図った。
<p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ホームページ、ラジオ広報等を通して利用可能な制度や相談機関の周知を図る。

9 デジタル化の推進

デジタル化の推進
【個別目標】 <ul style="list-style-type: none">・オンラインでの相談支援や患者サロンの開催ができる体制の整備を目標とします。
【県の主な取組】 <ul style="list-style-type: none">・第1回エキスパート連絡協議会（4月）で、エキスパート担当者へ病気療養児に対する教育保障のための遠隔授業の在り方を周知・遠方に住むがん患者等に対してオンラインで相談対応ができるよう、体制整備を支援
【進捗状況】 <ul style="list-style-type: none">・病気療養中等の児童生徒を対象とした ICT 活用による遠隔授業実施等について、令和6年度に特別支援教育エキスパートが対応した事案は3件（高等学校2校、中学校1校）、当課に直接相談があった事案は22件（小学校1件、中学校2件、高等学校19件）であり、国の制度に基づき、本人の体調やニーズ等を踏まえた助言を行った。
【今後の取組】 <ul style="list-style-type: none">・今後も引き続き、病気療養児支援について、国の制度について周知を図るとともに、相談内容に応じた助言等を行っていく。・ICTを活用したオンライン相談の体制整備を支援する。

10 非常時を見据えた対策

非常時を見据えた対策
【個別目標】 <ul style="list-style-type: none">・感染症発生・まん延時や災害時等の状況においても、必要ながん医療が提供できるよう、体制の整備を図ることを目標とします。
【県の主な取組】 <ul style="list-style-type: none">・拠点病院等の BCP 策定状況を確認・岡山県がん診療連携協議会への参加
【進捗状況】 <ul style="list-style-type: none">・拠点病院等では BCP が策定されている。・感染症発生・まん延時や災害時等の状況におけるがん医療提供体制の整備について引き続き検討が必要。
【今後の取組】 <ul style="list-style-type: none">・感染症発生・まん延時や災害発生時等の非常時であっても適切ながん医療を提供できるよう、連携体制の構築をはじめとする非常時に備えた対策について、平時から検討する。